

知的障害教育福祉の文化を今後の福祉教育に繋ぐ―糸賀一雄生誕 100 年に向けて―

1. 研究目的

初代園長糸賀一雄を中心に、近江学園の創設からその初期の実践を支えた人物の遺した史資料を整理保存し、これらの公開に向けた合意形成とスケジュールを確立し、最終的には本学をはじめとする福祉教育に資するテキストを編纂できる環境を構築することを目的とする。

ちなみに、平成 26 年は、糸賀一雄生誕 100 年を迎える。

2. 研究組織

(所員)		
蒲生 俊宏	社会福祉学部	研究の総括・進行管理
佐竹 要平	通信教育科	史資料の確認
(外部)		
齋藤 昭	社会福祉法人大木会理事長	調査の進行管理
三浦 了	社会福祉法人大木会顧問	調査の立ち会いと助言
富永健太郎	田園調布学園大学専任講師	史資料の調査

3. 研究調査（研究出張）の経過

日程	参加者	内容
6/ 6- 6/ 8	蒲生・富永・三浦	旧糸賀邸資料の確認・糸賀一雄宛書簡の確認
8/26- 8/28	蒲生・齋藤・三浦	
12/24-12/26	蒲生・齋藤・三浦	
3/10- 3/12	蒲生・佐竹・富永・齋藤	糸賀一雄蔵書のほこり払い
3/24- 3/26	蒲生	糸賀一雄蔵書の書庫戻し

4. 旧糸賀邸と「一碧文庫・不問庵」

旧糸賀邸は、糸賀一雄亡き後、滋賀県立近江学園や社会福祉法人大木会が現在地に移転する際に妻である糸賀ふさによって建てられたものである。平成 25 年 9 月には同氏が亡くなり、糸賀家の意向により書庫内に遺されていた書籍・資料ともに社会福祉法人大木会に寄贈された。

これを受けて、社会福祉法人大木会は旧糸賀邸の改修による「不問庵」（交流スペース＋茶室＋糸賀一雄書庫）、ならびに「一碧文庫」（糸賀一雄資料保存庫＋展示室＋作業コーナー）の新設を企画し、平成 25 年度末に竣工した。本研究の期間は、こうした工事の時期にも当たったため、書庫内の書籍・資料の一時保管場所への移動と竣工後の再移動といった作業にも携わることになった。

5. 作業の具体的経過

- ① 資料は、段ボール 15 箱に遺されており、まず、これらを 1 箱ごとに「文書箱（大型）」（注文品）に保存した。これらの中には、書簡類のみの 2 箱が含まれる。

②書庫内の書籍については、配列を再現できるように記録し、63箱の段ボールに収納した。

③上記のものを、工事の開始前に一時保管場所へと移動した（法人職員と合同）。

④竣工に合わせて、これらを「不問庵」に移動（法人職員と合同）し、書籍については一冊ずつ取り出して、ほこりを払い、配列を確認しながら書庫に戻した。



⑤資料（文書箱 15 箱）については、「一碧文庫」の完成を待って保存庫に収納した（法人職員）。



6. 資料確認の経過

上記作業に前後して、文書箱に入れ替えた糸賀一雄資料の確認を実施した。旧段ボール箱の開封順に1から15の番号を付し、便宜的に1から作業に入った。膨大な資料であるため、今年度は時間の許す範囲で実施し、次年度に引き継ぐ予定である。

これらの概要については、表1に示す。

7. 書簡確認の経過

同様に、旧段ボール箱に纏めて収納されていた書簡について、三浦了氏（社会福祉法人大木会顧問）の同席を基本に、確認作業を進めた。こちらについても、次年度に引き継ぐ予定である。

これらの概要については、表2に示す。

表1 糸賀一雄資料の一部

資料名	発行	日時	形式	内容・補足・コメントなど
第1回心身障害者の村(コロニー)懇談会資料	厚生省児童家庭局	昭和40年10月5日	B4 綴じ	
コロニー建設推進懇談会資料(第1回)	厚生省児童家庭局	昭和41年7月28日	B5 綴じ	
コロニー建設推進懇談会建設分科会資料(第1回)	厚生省児童家庭局	昭和41年8月18日	B4 綴じ	
第1回建設分科会の意見		なし	B4 綴じ	
国立コロニー等に入所させる児童の基準(案)		なし	B4 綴じ	
工事工程計画表		なし	B4 綴じ	
第2回心身障害者の村(コロニー)懇談会資料	厚生省児童家庭局	昭和40年11月5日	B4 綴じ	
コロニー建設推進懇談会建設分科会資料(第3回)	厚生省児童家庭局	昭和41年10月14日	B4 綴じ	
コロニー建設推進懇談会建設分科会資料(第4回)	厚生省児童家庭局	昭和41年10月28日	B4 綴じ	
国立心身障害者コロニー設置計画(案)	厚生省児童家庭局	昭和41年11月	B4 綴じ	
心身障害者の村(コロニー)懇談会 便箋		昭和40年8月	B5 ファイル(黄) B5×2枚 横便箋 手書き	かつ、その願いを実現させるために
国立心身障害者コロニーの設置について			B4 綴じ	糸賀による書き込みあり
第3回心身障害者の村(コロニー)懇談会開催通知	厚生省児童家庭局長 竹下精紀	昭和40年11月19日		糸賀一雄宛
第2回心身障害者の村(コロニー)懇談会開催通知	厚生省児童家庭局長 竹下精紀	昭和40年10月27日		糸賀一雄宛
第1回心身障害者の村(コロニー)懇談会開催通知	厚生省児童家庭局長 竹下精紀	昭和40年9月29日		糸賀一雄宛 次により開催したく〇〇
いわゆるコロニー設置についての意見	タナミ幸男		B4×2枚 上のり 付け 1部	関連資料
コロニー設置についての私見	牧 賢一		B4×2枚 上のり 付け 1部	関連資料
心身障害児(者)コロニー懇談会メンバー(順不同)			B4×1枚	一部書き込みあり 葛西から16名(葛西、菅、糸賀、登丸、仲野等)
第4回コロニー懇談会についての事務連絡資料	葛西	昭和40年12月16日	B4半折り×1枚	第4回コロニー懇談会における決定に基づき、牧、三木、仲野各委員〇〇別紙の通り懇談会の最終懸案をまとめました。なお、特にご意見がある向きは12月22日までに厚生省児童家庭局長宛にご連絡頂きたく。
第3回コロニー懇談会についての事務連絡資料	葛西	昭和40年12月4日	B4半折り×1枚	拝啓、時下〇〇さて、去る11月26日の第3回懇談会の申し合わせに従いまして、別紙のようなコロニー設置についての試案をまとめましたので、これを

				ご高覧のうえ・・・
資料（青焼き罫線あり）			B5×1枚 青焼き （罫線あり）	最近、重症心身障害児に対する施策の拡充が強く叫ばれ、その一つとしてコロニー設置の衰勢が論議されているが、元来、心身の障害を持つ全ての人々の生命を育み、また、生命あるものの権利としてその向上を図り、そのことによって障害者と共々に国民の全てがお互いに育ち合う環境を形成することは、全国民の願いでもあり、かつ、国家社会の義務でもある。上述のような点を考慮してコロニーというものを考えた場合・・・
葛西草案を作られるにあたっての私見	三木安正		B4×2枚 上のり 付け 1部	
資料（近江学園罫紙）			B5×2枚 横 手 書き 罫紙	糸賀による手書きのもの オランダ、イスラエル、イギリス・・・ おそらく糸賀が見聞を基にコロニーの懇談に向けてメモをしたようなもの
いわゆるコロニー設置についての意見(葛西試案)		昭和40年12月4日	B4×3枚 綴じ マル秘印あり	糸賀によるメモあり
いわゆるコロニー設置についての意見(未定稿)		昭和40年11月26日	B4×2枚 綴じ	糸賀によるメモあり タイトル下に自筆で「若松？局長」
心身障害者のためのコロニー設置についての意見(葛西試案)		昭和40年12月14日	B4×3枚 青焼き 横罫紙	
いわゆるコロニー設置についての意見(葛西試案)		昭和40年12月13日	B4×3枚 青焼き 横罫紙 綴じ	
心身障害者のためのコロニー設置についての意見			B4横折り×2.5枚 綴じ	
心身障害者のためのコロニーについての経緯(概略)			B4横折り×1枚	
資料（コロニー懇談会参加依頼）	厚生大臣 鈴木善幸	昭和41年4月8日	B4×1枚	糸賀一雄殿 拝啓、時下益々〇〇貴殿にこの懇談会にご参加を賜り、お力添えを頂きたいお願い申し上げます。何卒〇〇下さるよう特にお願い申し上げます。よってコロニー建設についてのこれまでの経過および、コロニーの機能や内容について述べられたコロニー懇談会の件は別件の通り・・・懇談会の参加依頼
資料（諸会議参加依頼・事務連絡）	厚生省児童家庭局長	昭和41年4月〇日？	B4横折り×1枚	
資料（諸会議参加依頼・事務連絡）		昭和41年8月8日	B4×1枚	

表 2 糸賀一雄宛書簡の一部

日時	形式	宛名等	発行・差出人	内容	備考
昭和40年3月27日	紙 1枚	糸賀に捧ぐ		和歌 1首	詠み人不明 裏面に〇〇〇
	紙 1枚			和歌	〇〇 裏面不明
	紙 1枚			「滋賀県知事2期8年間の任期を今大過なく終え・・・」	挨拶文 上記封筒同封
昭和40年7月	封筒	糸賀一雄様	京都市の画廊	版画展の案内	消印あり昭和40年7月
昭和35年9月6日	封筒	〇〇〇〇	社会福祉法人光徳寺善隣館		消印あり昭和35年9月6日 社会福祉法人光徳寺善隣館封筒
	青焼き	理事糸賀園長殿		〇〇学園工事の報告 工事現場管理報告書	上記封筒同封
昭和37年5月	B4折り 2枚			松江高等同窓会滋賀支部会員名簿	糸賀一雄の氏名記載
			日本教育心理学会	昭和35年度版会員名簿追加変更	
昭和39年5月12日		糸賀一雄様	株式会社柏樹社	柏樹社運営関係の報告	消印あり昭和39年5月12日 東京都文京区・・・定款のご承認 取締役として・・・全任
			株式会社柏樹社	株式会社柏樹社株主名簿	糸賀一雄の氏名記載
昭和38年4月1日			滋賀県	民生(児童)委員名簿	昭和38年4月1日現在
昭和35年5月8日	はがき 1枚	糸賀先生様へ	〇〇〇〇〇(〇〇〇)	「糸賀先生、〇〇〇です・・・」	消印あり昭和35年5月8日
昭和35年5月19日	はがき 1枚	糸賀先生様へ	〇〇〇〇〇	「糸賀先生、何べんもすみません・・・」	消印あり昭和35年5月19日
	便箋 1枚			「園長先生 前略～先日のお話でございますが、思い切って体当たりをしてみようと決まってきましたので、・・・」	
	封書	糸賀一雄先生様へ	〇〇〇〇〇		消印あり昭和30年5月10日か 昭和35年5月17日投函という記入あり
	便箋 3枚	糸賀一雄先生様へ	〇〇〇〇〇	「糸賀先生、〇〇〇です。いつも申し訳ございません。～糸賀先生様へ、真面目になって出直しいたします。」	3枚目白紙 上記封書同封
昭和35年5月27日	封書	糸賀一雄様	〇〇屋食堂前(〇〇)		消印昭和35年5月27日
	便箋 2枚	糸賀一雄様	〇〇〇〇	「謹啓、青葉の候と相成りました。昨日は大変お世話様に相成り、初めてお目にかかりましたにも関わらず・・・30日には裁判所にも行き、また〇〇〇さん〇〇の時は必ず迎えに行きたいと思っております。」	上記封書同封 2枚目白紙